

WHO news August 2024

2024 年 8 月 5 日

[CEPI and WHO urge broader research strategy for countries to prepare for the next pandemic](#)

The Coalition for Epidemic Preparedness Innovations (CEPI) and the World Health Organization (WHO) today called on researchers and governments to strengthen and accelerate global research to prepare for the next pandemic.

感染症対策イノベーション連合と WHO、次のパンデミックに備えるため各国に研究戦略を要請

感染症対策イノベーション連合 (CEPI : Coalition for Epidemic Preparedness Innovations) と世界保健機関 (WHO) は、研究者と各国政府に対し、次のパンデミックに備えるためのグローバル研究を強化・加速するよう呼びかけました。

ブラジルで開催された世界パンデミック対策サミット 2024 では、「疫病のための研究開発計画 (R & D Blueprint for Epidemics)」研究開発報告書が発表されました。この作業には、50 カ国以上から 200 人以上の科学者が参加し、28 のウイルスファミリーと 1 つの中核的細菌群、合計 1652 の病原体に関する科学的根拠と証拠を評価し、エピデミックとパンデミックのリスクは、感染パターン、病原性、診断テスト、ワクチン、治療法の利用可能性に関する入手可能な情報を考慮して決定されました。

この枠組みは、病原体ファミリー全体に関する研究の舵取りと調整に役立つものであり、不測の変種、新興病原体、人獣共通感染症の波及、病原体 X と呼ばれる未知の脅威に対する世界の迅速な対応能力を強化することを目的とした戦略です。

WHO は世界中の研究機関と協力して、病原体ファミリーごとに共同公開研究コンソーシアム (CORC : Collaborative Open Research Consortium) を設立し、WHO 協力センターを各ファミリーの研究拠点として機能させています。

2024 年 8 月 5 日

[On World Breastfeeding Week, UNICEF and WHO call for equal access to breastfeeding support](#)

This World Breastfeeding Week, under the theme “Closing the gap: Breastfeeding support for all”, UNICEF and WHO are emphasizing the need to improve breastfeeding support as a critical action for reducing health inequity and protecting the rights of mothers and babies to survive and thrive.

母乳育児支援への平等なアクセスを呼びかけ ; ユニセフと WHO

過去 12 年間で、母乳のみで育てられる生後 6 ヶ月未満の乳児の数は、世界中で 10 % 以上増加しました。これは、世界の 48 % の乳児が母乳育児によって健康的な人生のスタートを切っていることを意味します。

この大きな飛躍により、2025 年までに母乳のみで育てる割合を少なくとも 50 % に引き上げるという世界保健機関の目標に近づく一方で、対処しなければならない課題も根強く残っています。世界の半分以上の母親達が、必要不可欠な健康サービスを完全にカバーできていないため、多くの女性が赤ちゃんに最適な母乳育児を行うために必要な支援を受けていません。これは、女性の母乳育児の全過程を通じて、訓練を受けた、共感的で尊重に値する健康アドバイスやカウンセリングへのアクセスが不十分だからです。

今年の世界母乳育児週間では、「格差をなくす：すべての人に母乳育児を支援（仮訳）（Closing the gap : Breastfeeding support for all）」というテーマの下、ユニセフと WHO は、健康格差を減らし、母親と赤ちゃんの生存と成長の権利を守るための重要な行動として、母乳育児支援を改善する必要性を強調しています。

2024 年 8 月 5 日

[New initiative launched to advance mRNA vaccine development against human avian influenza \(H5N1\)](#)

A new project aiming to accelerate the development and accessibility of human avian influenza (H5N1) messenger RNA (mRNA) vaccine candidates for manufacturers in low- and middle-income countries has been launched today.

鳥インフルエンザ (H5N1) に対する mRNA ワクチン開発を推進する新イニシアチブ

中低所得国の製造業者向けに、ヒト鳥インフルエンザ (H5N1) メッセンジャー RNA (mRNA) ワクチン候補の開発と入手を加速することを目的とした新しいプロジェクトが発足しました。

この開発は、パンデミックの可能性を持つインフルエンザウイルスの共有を改善・強化し、中低所得国のワクチンへのアクセスを向上させるという、パンデミック・インフルエンザ対策枠組みの下で進行中の作業を補完するものです。

世界保健機関 (WHO) と医薬品パテントプール (MPP) の mRNA 技術移転プログラムを活用し、アルゼンチンのメーカーである Sinergium Biotech 社がこの取り組みを主導します。

2024 年 8 月 5 日

[Defining access to countermeasures: landscape report: executive summary](#)

This landscape report on the current status of activities related to medical countermeasures (MCMs) for pandemic response underscores the urgent need for action in this critical area..

保健医療対策アクセスの定義：ランドスケープ・レポート（概要）

パンデミック対応のための医療対策 (MCMs : medical countermeasures) に関する活動の現状に関するこのランドスケープ・レポートは、この重要な分野における行動の緊急の必要性を強調しています。

多様な側面での研究開発の強化によって、パンデミックへの備えへの道のりは多面的な風景を横切っ

ていますが、これまでの進展にもかかわらず、MCM に関連するすべての側面で埋められるべき重要なギャップや、緊急に対処すべき脆弱性が残っています。

本報告書では、MCM の分野における科学的進歩と、現在進行中または計画中の活動を調査していません。

WHO はネットワークオブネットワークス・アプローチ (network-of-networks approach) を採用し、既存の MCM ネットワークとその専門知識を活用し、ランドスケープ分析を導くために、WHO の 2023 年健康緊急事態への備えと対応 (HEPR : Health Emergency Preparedness and Response) フレームワークから分析フレームワークを採用しました。

2024 年 8 月 5 日

[Adolescent girls face alarming rates of intimate partner violence](#)

Among adolescent girls who have been in a relationship, nearly a quarter (24%) – close to 19 million – will have experienced physical and/or sexual intimate partner violence by the time they turn 20 years old, as highlighted by [a new analysis](#) from the World Health Organization (WHO) published today in *The Lancet Child & Adolescent Health*.

思春期の少女は、憂慮すべき割合で親密なパートナーの暴力に直面

世界保健機関 (WHO) が、*The Lancet Child & Adolescent Health* 誌に発表した新たな分析によると、交際経験のある 10 代の少女は 20 歳になるまでに親密なパートナーから身体的・性的暴力を経験していることが明らかになりました。過去 1 年間にほぼ 6 人に 1 人がそのような暴力を経験しています。

WHO の推計によると、最も被害がひどい地域はオセアニア (47 %) とサハラ以南のアフリカ中部 (40 %) であり、最も低いのは中央ヨーロッパ (10 %) と中央アジア (11 %) です。パートナーからの暴力は、若者の健康、学業成績、将来の人間関係、そして生涯の展望に壊滅的な影響を及ぼし、健康の観点からは、傷害、うつ病、不安障害、無計画な妊娠、性感染症、その他多くの身体的・心理的症状の可能性が高まります。

世界の女兒の 5 人に 1 人がこのような影響を受けていますが、これを終わらせ、女兒の中等教育へのアクセスを拡大することが、思春期の女兒に対するパートナーによる暴力を減らすための重要な要素となります。

WHO は、保健医療分野における予防と対応を強化する取り組みを含め、女性に対する暴力を測定し、対処する各国を支援しています。児童婚の防止に関する新しい WHO ガイドラインは、2024 年末までに発表される予定です。

2024 年 8 月 16 日

[WHO Director-General declares mpox outbreak a public health emergency of international concern](#)

WHO Director-General Dr Tedros Adhanom Ghebreyesus has determined that the upsurge of mpox in the Democratic Republic of the Congo (DRC) and a growing number of countries in Africa

constitutes a public health emergency of international concern (PHEIC) under the International Health Regulations (2005) (IHR).

エムポックス (サル痘 : Mpox) を国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態と宣言 (WHO)

WHO のテドロス局長は、Mpox がコンゴ民主共和国 (DRC) およびアフリカの多くの国々で急増しているのを受け、国際保健規則 (2005) (IHR) に基づく『国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態 : PHEIC : public health emergency of international concern』を宣言しました。

この緊急事態宣言は 2022 年 7 月に出されて以来、2 度目となります。

コンゴ民主共和国では 10 年以上前から Mpox が報告されており、今年に入ってから報告数はすでに昨年を上回り、症例数は 15,600 件以上、死者数は 537 人となっており、昨年には主に性的ネットワークを通じて広がっていると思われる新型ウイルス、クレード 1b が出現、急速に拡大しています。この 1 ヶ月の間に、コンゴ民主共和国に隣接し、これまで Mpox が報告されていなかった 4 カ国 (ブルンジ、ケニア、ルワンダ、ウガンダ) で 100 件を超えるクレード 1b の検査確定症例が報告されました。この変異株が近隣諸国で検出されたことは特に懸念とされ、PHEIC 宣言の主な理由の一つとなっています。専門家は、臨床的に適合する症例の大部分が検査されていないため、本当の症例数はもっと多いとみています。

2024 年 8 月 16 日

[Multi-country outbreak of cholera, External situation report #17 - 15 August 2024](#)

From 1 January 2024 to 28 July 2024, a cumulative total of 307 433 cholera cases and 2326 deaths were reported from 26 countries across five WHO regions, with the Eastern Mediterranean Region recording the highest numbers, followed by the African Region, the South-East Asia Region, the Region of the Americas, and the European Region.

コレラ、外部情勢報告 第 17 報 (2024 年 8 月 15 日)

2024 年 1 月 1 日から 7 月 28 日までに、WHO の 5 つの地域にまたがる 26 カ国から、累計 307,433 人のコレラ患者と 2,326 人の死亡者が報告されました。この間、西太平洋地域ではアウトブレイクの報告はありませんでした。

患者数が最も多く報告されたのは東地中海地域 (188,321 例、6 カ国)、次いでアフリカ地域 (111,168 例、14 カ国)、東南アジア地域 (5,052 例、4 カ国)、南北アメリカ地域 (2,672 例、1 カ国)、ヨーロッパ地域 (220 例、1 カ国) でした。

コレラ対策は、経口コレラ・ワクチン (OCV) の危機的な不足の影響を受け続けています。2023 年 1 月以降、18 カ国から 1 億 500 万回分の需要があり、この間に生産された 5500 万回分のほぼ 2 倍となっています。

WHO は、2023 年 1 月にコレラの世界的な再流行を、WHO の緊急事態の内部レベルでは最も高いグレード 3 の緊急事態に分類しました。アウトブレイクの数や地理的な拡大、ワクチンやその他の資源の不足を踏まえ、WHO は引き続き世界レベルでのリスクを非常に高いと評価し、引き続きグレード 3 の緊急事態に分類しています。

2024年8月16日

[Japan supports WHO's work to improve health services and emergency response](#)

The Government of Japan's support to WHO has enabled the Western Pacific Region and other countries across the globe to carry out much-needed health emergencies responses and to provide essential health services to vulnerable populations.

日本が WHO の健康サービスと緊急時対応の改善活動を支援

WHO に対する日本政府の支援により、エチオピア、ガザ地区、ナミビア、太平洋諸島諸国、ソマリア、シリア、トンガ、西太平洋地域、ウクライナで、極めて重要な活動が行われ、西太平洋地域をはじめとする世界各国は、必要とされる健康緊急事態への対応を実施し、脆弱な人々に必要不可欠な保健サービスを提供することができました。

その、主な活動は以下の通りです。

1. 西太平洋地域における健康の安全保障における回復力と協力体制を強化するための戦略的支援
 - 太平洋島嶼国における緊急医療チーム (EMT : emergency medical teams) の訓練
 - 西太平洋地域で強力な疫学人材を育成
 - マリ・マリ (笑顔) (トンガ) 歯磨きプロジェクト
2. 他的大陸における日本の WHO 支援
 - エチオピアの大きなニーズに応える移動健康チーム
 - ソマリアの洪水・干ばつ被災地における人命救助
 - シリアの主要病院の復旧再開
 - エジプトで治療を受けるガザ地区からの患者を支援
 - ガザの人々に緊急の医療・栄養支援を提供
 - ブルガリアにおける疾病サーベイランスと診断の改善によるウクライナ難民の保護

2024年8月16日

[World Patient Safety Day, 17 September 2024: "Improving diagnosis for patient safety"](#)

World Patient Safety Day is an opportunity to raise public awareness and foster collaboration between patients, health workers, policymakers and health care leaders to improve patient safety.

9月17日は世界患者安全の日

世界患者安全の日 (World Patient Safety Day) は、患者の安全性を向上させるために、公衆衛生に対する意識を高め、患者、医療従事者、政策立案者、ヘルスケアリーダー間の協力を促進する機会です。

今年のテーマは「Improving diagnosis for patient safety」で、「Get it right, make it safe !」をスローガンとし、患者の安全を確保し、ヘルスアウトカムを改善する上で、正しくタイムリーな診断が極めて重要であることを強調しています。

診断は患者の健康問題を特定し、必要なケアや治療を受けるための鍵となります。診断ミスとは、患者の健康問題を正しくタイムリーに説明できなかったことであり、診断の遅れ、誤り、見逃し、あるいは

はその説明を患者に伝えられなかったことが含まれます。

診断の安全性は、診断ミスの原因となるシステム上の問題や認知的要因に対処することで、大幅に改善することができます。 システム的要因とは、医療従事者間または医療従事者と患者間のコミュニケーション不全、業務量の多さ、非効率なチームワークなど、診断エラーを引き起こしやすい組織的脆弱性のことです。 認知的要因とは、臨床医のトレーニングや経験に加え、偏見や疲労、ストレスなどの要因を含みます。

WHO は、診断の安全性を優先し、システムを強化し、安全な診断経路を設計し、医療従事者が正しい判断を下せるよう支援し、診断プロセス全体を通して患者を関与させるための多面的なアプローチを採用するために、すべての関係者と協力していきます。

2024年8月19日

[Global guidance on monitoring public health and social measures policies during health emergencies](#)

This global guidance aims to facilitate systematic and harmonized data collection about, and monitoring of, public health and social measures (PHSM) policies implemented by governments during health emergencies..

保健緊急時の「公衆衛生・社会対策政策モニタリング」に関するグローバル・ガイダンス

公衆衛生・社会的対策（PHSM：public health and social measures）とは、感染症のリスクや感染規模を軽減するために、個人、地域社会、機関、政府のあらゆるレベルで実施される医薬品以外の介入策です。 PHSM は、健康上の緊急事態が発生した際に最初に実施される介入策であることが多く、公平に配布される医療対策がない場合、アウトブレイクを抑制するために利用できる唯一の手段になってしまうことも想定できます。 従って、PHSM 政策の実施をモニタリングすることは、エビデンスに基づいた意思決定を支援する上で極めて重要です。

このグローバル・ガイダンスは、緊急時に政府が実施する PHSM 政策について、体系的かつ整合化されたデータ収集とモニタリングを促進することを目的とし、公衆衛生緊急事態への対応や PHSM 政策の策定を担当する様々なセクターやレベルの政策立案者、保健当局、対応者、研究者を対象としており、準備と対応の両方における PHSM 政策モニタリングのための主要な行動を示しています。

2024年8月26日

[Grim milestone on World Humanitarian Day: WHO records 1940 attacks on health care in Ukraine since start of full-scale war](#)

Today, as we observe World Humanitarian Day, we aim to remind the world about one of the biggest ongoing emergencies in the WHO European Region with a grim milestone – 1940 WHO-confirmed attacks on health care.

世界人道デーの悲惨な節目：ウクライナの医療施設への攻撃 1940 件記録

世界人道デー（8月19日）を迎えるにあたり、WHO ヨーロッパ地域で現在も続いている最大の緊急事態の一つにおいて、1940 件の医療施設への攻撃という悲惨な出来事を、世界に思い出してもらいたいと考えています。

これは、WHO がこれまでに記録した世界規模の人道緊急事態の中で最大の数字です。昨年、医療従事者や患者の死者は 24 人でしたが、2024 年の最初の 7 カ月半の間に、合計 34 人が医療施設への攻撃で死亡しています。

継続的な人道的ニーズに対応するため、本格的な戦争が始まって以来、WHO は救急車、医薬品、発電機を含む約 3,750 トンの医療物資を国内各地に配布してきました。

ウクライナの医療従事者は正真正銘のヒーローです。攻撃が続いているにもかかわらず、あらゆる困難にもかかわらず、彼らは何度も何度も立ち上がるのです。

世界人道デーに、そして毎日、私たち WHO は彼らに敬意を表し、今も、そしてこれからも、彼らの支えとなることを誓います。

2024 年 8 月 26 日

[World Suicide Prevention Day 2024](#)

Suicide is a major public health challenge, with more than 700 000 deaths each year globally. Each suicide has far-reaching social, emotional, and economic consequences, and deeply affects individuals and communities worldwide.

The triennial theme for World Suicide Prevention Day for 2024-2026 is "Changing the Narrative on Suicide" with the call to action "Start the Conversation".

9月10日は世界自殺予防デー (World Suicide Prevention Day)

自殺は公衆衛生上の大きな課題で、世界全体で毎年 70 万人以上が亡くなっており、それらは、世界中の個人や地域社会に、社会的、感情的、経済的に深刻な影響を及ぼしています。

2024 - 2026 年の世界自殺予防デーの 3 年ごとのテーマは、「自殺に関するナラティブを変えよう (Changing the Narrative on Suicide)」で、「会話を始めよう (Start the Conversation)」という行動を呼びかけています。

この目的は、自殺を防ぐためにスティグマを減らし、開かれた会話を促すことの重要性に対する認識を高めることで、自殺に関する道筋を変えることは、私たちがこの複雑な問題をどのように受け止めるかを変え、沈黙とスティグマの文化から、開放性、理解、支援の文化へと移行するということです。

また、政策立案において自殺防止とメンタルヘルスを優先する必要性も強調し、政府の行動を求め、状況を変えるには、メンタルヘルスを優先し、ケアへのアクセスを増やし、支援を必要とする人々に支援を提供する政策を推進する必要があります。

2024年8月26日

[Oropouche virus disease - Region of the Americas](#)

In 2024, the number of reported Oropouche virus disease has increased in the WHO Region of the Americas, including in areas with no previously recognized history of Oropouche virus disease..

オロプーシェ熱、南北アメリカで増加

オロプーシェウイルス熱は、主にヌカカ (*Culicoides paraensis*) という昆虫に咬まれることで、オロプーシェウイルス (OROV) に感染することにより引き起こされる発熱性疾患です。

2024年、WHOの南北アメリカ地域では、これまで発生が認められていなかった地域を含め、オロプーシェウイルス熱の報告数が増加しています。

2024年7月20日現在、アメリカ大陸地域では、ボリビア、ブラジル、コロンビア、キューバ、ペルーで、2人の死亡者を含め、合計8,078人の症例が確認されており、いくつかの国では致死的な感染と垂直感染の可能性も確認されています。

OROVは歴史的にアマゾン地域で感染してきました。しかし、気候変動、森林伐採、無計画な都市化などにより、アマゾン地域以外のブラジルの州や、ボリビア、キューバなど、これまで症例が報告されていない国々にも広がっています。入手可能な情報に基づき、WHOはこのウイルスがもたらす公衆衛生上のリスクは、地域レベルでは高く、世界レベルでは低いと評価しています。

オロプーシェウイルス熱は、アメリカ大陸では新興で同定が不十分なアルボウイルスであるため、陽性サンプルの検出と症例の確定には、国際保健規則 (IHR) の附属書2に従い、IHRの確立されたルートを通じて通知する必要があります。

[\(訳注\) オロプーシェ熱の詳細については、国立感染症研究所のサイトをご覧ください。](#)

注) 本サマリーは、WHO発信情報のインデックスとして役立てて頂くよう標題及び冒頭部分を仮訳しているものですので、詳細内容については、WHOニュースリリース、声明及びメディア向けノートの内容をこちらからご確認下さい。

<https://www.who.int/news-room/releases>

<https://www.who.int/news-room/statements>

<https://www.who.int/news-room/notes>